

# 自治大卒業生の声

## 自治大卒業生（第2部課程第210期）

岐阜県各務原市 健康福祉部こども政策課 和田 佳子

編集者注：本稿は、自治大卒業生における研修の特長などについて、自治大卒業生が記したものです。

### 1. はじめに

私は、令和7年12月5日から令和8年3月4日までの3か月に渡り、自治大第2部課程第210期の研修を受講しました。人事課長から入校の声を掛けられた際、即答できませんでした。卒業された先輩方から「いい経験だった」と伺っていたものの、新たな制度を始める途中で係員へ負担を強いることや、講義についていけるか不安がありました。しかし、相談した方から「チャンスは今しかないよ！」と背中を押していただき、入校を決めました。

### 2. 入校まで

入校の1カ月前に、事前課題としてeラーニングと事例演習テキストが届きました。予算編成と国勢調査業務も重なり、時間の工面に難儀しました。

eラーニングは、憲法、民法、地方公務員制度など法律の基礎を学びましたが、週末にまとめて受講していたため進捗が遅く、入校直前まで受講しました。

事例演習テキストは、さまざまな地方公共団体が抱える課題について先進自治体の事例がまとめられた内容となっており、所属自治体の取組等を調べるものでした。私は、地域交通の課題と、地域コミュニティと市民協働を調べることになりましたが、どちらも担当したことがない業務であったため、担当課の職員にヒアリングしながら進

めました。自治体の歴史や人口分布、地形や企業との関わりなどが異なると、課題に対する取組もさまざまで、興味深かったです。

### 3 自治大での学び

#### (1) 法制集中研修

入校後、12月は法制集中研修を受講しました。憲法、行政法、民法、地方自治制度といった地方自治の基盤を支える法制度について体系的に学びました。どの講師も、近年の事例を織り込んだ話をしていただいたので、身近な問題として考えることができ、理解が進みました。

また、地方公務員制度では、服務規律の根拠や、会計年度任用職員、勤務延長等の制度を整理し、人材を効率的に配置し効果的に自治体を運営していく必要性が説かれました。地方税財政制度では、財政指標を踏まえながら、類似団体との比較を行いました。国から地方への財源移譲や、固定資産税評価額の統一を図った講師の経験談を拝聴したことで、公務員の先輩の想像を絶する覚悟と努力を知ることができ、地方公務員としての覚悟を問われているようで、背筋を正される思いがしました。

#### (2) 講義での学び

1月に入ると、総合教養・公共政策・行政経営・地方公共団体をめぐる最新の政策課題を取り上げた課目があり、第一線で活躍されている著名な講師陣から講義をいただきました。どの講師も、理論に加え、多くの地域の事例に携わっておられるため、私た

ちに身近な目線でお話しいただき、非常にわかりやすかったです。公共政策や行政経営に関する知識を幅広く深めることができ、多くの先進事例や最新の国の動向を知ることができました。

また、模擬講義では、講師としての心構えや話し方、受講者に関心を持ってもらうための仕掛けなどを学びました。研修生を前に行った地方自治制度の講義では、緊張して原稿に目を落としてばかりの苦い経験となりました。真っ直ぐと前を向いて、はつらつと話す仲間を見て、練習不足を反省しました。

#### 4 政策立案演習での学び

政策立案演習は、自治大学校の研修の中で重要な位置付けがなされており、4～6名で構成されたグループで、各自が持ち寄った政策に関するテーマについて、メンバーと議論を重ね、報告書にまとめてプレゼンを行うものです。私のグループは、所属自治体である各務原市を対象に「かかみがはら発 公立保育所から始めるインクルーシブ改革」をテーマに政策提言を行いました。所属自治体や視察先の保育士の声や、入所選考に携わる行政職員の声を聞くことで、各務原市の施策としてどのように反映していくのかという難しさに直面しました。外部教官・内部教官の指導を仰ぎながら提言をまとめていきましたが、示唆に富んだ多くのご指摘をいただくことで、説得力を持ち実現可能性を備えた政策に練り上げることができました。

限られた時間の中で、現状分析のための情報収集や先進地視察、報告書やプレゼン資料の作成、当日の発表等、メンバーが役割分担をして取り組む必要がありました。その中で一人一人の業務経験や得意分野、考え方など、学ぶことがとても多かったです。

現状分析をしっかりと行う重要性や、仮説

を立てて検証するプロセスを経験することに加え、立てた仮説が視察により覆され、再度政策を練り直した経験は有益でした。

演習の振り返りでは、メンバー全員がチームビルディングやコミュニケーションの大切さを経験できたことで、その先の大きなやりがいを実感していたことは感慨深かったです。

#### 5 寮生活－全国の仲間との交流－

全国から集まった研修生は、3か月間共に学び、親交を深めたかけがえのない存在です。各階のフロア談話室では、全国から届く銘酒や名産品を嗜みながら、講義の話や趣味の話、各自治体の取組や将来の話などを語り合いました。休日の高尾山登山、東京散策、フロア対抗で開催したバレーボール大会、フロアごとに企画した卒業旅行など、普段体験できないことを思い切り楽しみました。尊敬できる仲間恵まれて過ごした経験は、これからの人生においても群を抜いて輝く時間であり続けると思います。

#### 6 おわりに

研修期間中、普段の業務ではなかなか触れることのない視野に富んだ知識や情報をたくさん得ることができました。そして、かけがえのない仲間との出会いは、仕事に対する姿勢を見直す契機となりました。

行政の仕事は、地域の未来を創る仕事であることを改めて実感しています。私が担当するこども施策においても、どのような未来を実現するために、今何に着手しなければならないかを常に問い続け、地域に貢献することが求められています。

研修に快く送り出していただき、不在時のフォローしてくださった職場の上司や同僚の気持ちに応えるためにも、日々研鑽を積み、研修で得た学びを職場に還元していきたいと思っています。